



Color &amp; Comfort by Chemistry



## 平成23年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年8月6日

上場会社名 D I C株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4631 URL <http://www.dic.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 杉江 和男 (TEL) 03 (3272) 4511  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 二宮 啓之 配当支払開始予定日 —  
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月13日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満四捨五入)

## 1. 平成23年3月期第1四半期の連結業績（平成22年4月1日～平成22年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第1四半期	196,806	15.0	10,214	384.8	9,262	—	6,028	—
22年3月期第1四半期	171,189	△33.6	2,107	△76.0	314	△95.6	188	△96.5

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円銭	円銭
23年3月期第1四半期	7.26	—
22年3月期第1四半期	0.24	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
23年3月期第1四半期	780,699	145,594	15.9	134.95
22年3月期	749,866	122,829	13.5	127.72

(参考) 自己資本 23年3月期第1四半期 123,828百万円 22年3月期 101,034百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
22年3月期	—	2.00	—	2.00	4.00
23年3月期	—				
23年3月期(予想)		2.00	—	2.00	4.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：無

## 3. 平成23年3月期の連結業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
第2四半期(累計)	390,000	8.4	20,000	159.8	16,000	436.7	8,000	—	9.15
通期	780,000	2.9	38,000	36.6	31,000	62.5	12,000	372.4	13.40

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：有

4. その他（詳細は、[添付資料] P. 5「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

② ①以外の変更 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年3月期1Q	919,372,048株	22年3月期	792,872,048株
23年3月期1Q	1,819,234株	22年3月期	1,814,322株
23年3月期1Q	829,826,118株	22年3月期1Q	791,093,553株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、4ページをご参照下さい。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績 .....	1
(1) 当第1四半期(3か月)の業績全般の概況 .....	1
(2) 当第1四半期(3か月)のセグメント別業績 .....	1
(3) 当第2四半期連結累計期間及び通期の業績全般の見通し .....	4
2. 財政状態 .....	4
3. その他の情報 .....	5
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	5
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	5
4. 四半期連結財務諸表 .....	6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	6
(2) 四半期連結損益計算書 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	11
(5) セグメント情報 .....	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	12

## 1. 経営成績

当社グループの決算期は、一部を除き、海外子会社が12月、国内会社は3月であるため、当第1四半期（3か月）の状況に関しては、海外子会社は平成22年1月～3月期、国内会社は平成22年4～6月期について各々記載しています。

## (1) 当第1四半期（3か月）の業績全般の概況

当第1四半期の当社グループを取り巻く事業環境は、昨年4～6月以降の緩やかな景気回復傾向が継続し、世界同時不況前のレベルには及ばないものの、前年同期比では全般的に需要は大きく伸長しました。

このような事業環境の中、当第1四半期の売上高は、国内外ともに全事業部門で増加し、1,968億円と前年同期比15.0%の増収となりました。

営業利益は、全般的な売上数量の増加や品目構成の改善などにより、102億円と前年同期比4.8倍の大幅な増益となりました。

	当第1四半期 実績（3か月）	前第1四半期 実績（3か月）	前年同期比	
				為替影響排除後
売上高	1,968億円	1,712億円	+15.0%	+13.4%
営業利益	102	21	4.8倍	4.1倍
経常利益	93	3	29.5倍	--
四半期純利益	60	2	32.1倍	--

(注) 当第1四半期の決算にあたり、海外関係会社の現地通貨建て業績を円貨に換算するための主な為替レート（期中平均：平成22年1月～3月）は、91.09円/米ドル（前年同期：94.16円/米ドル）です。

## (2) 当第1四半期（3か月）のセグメント別業績

(単位：億円)

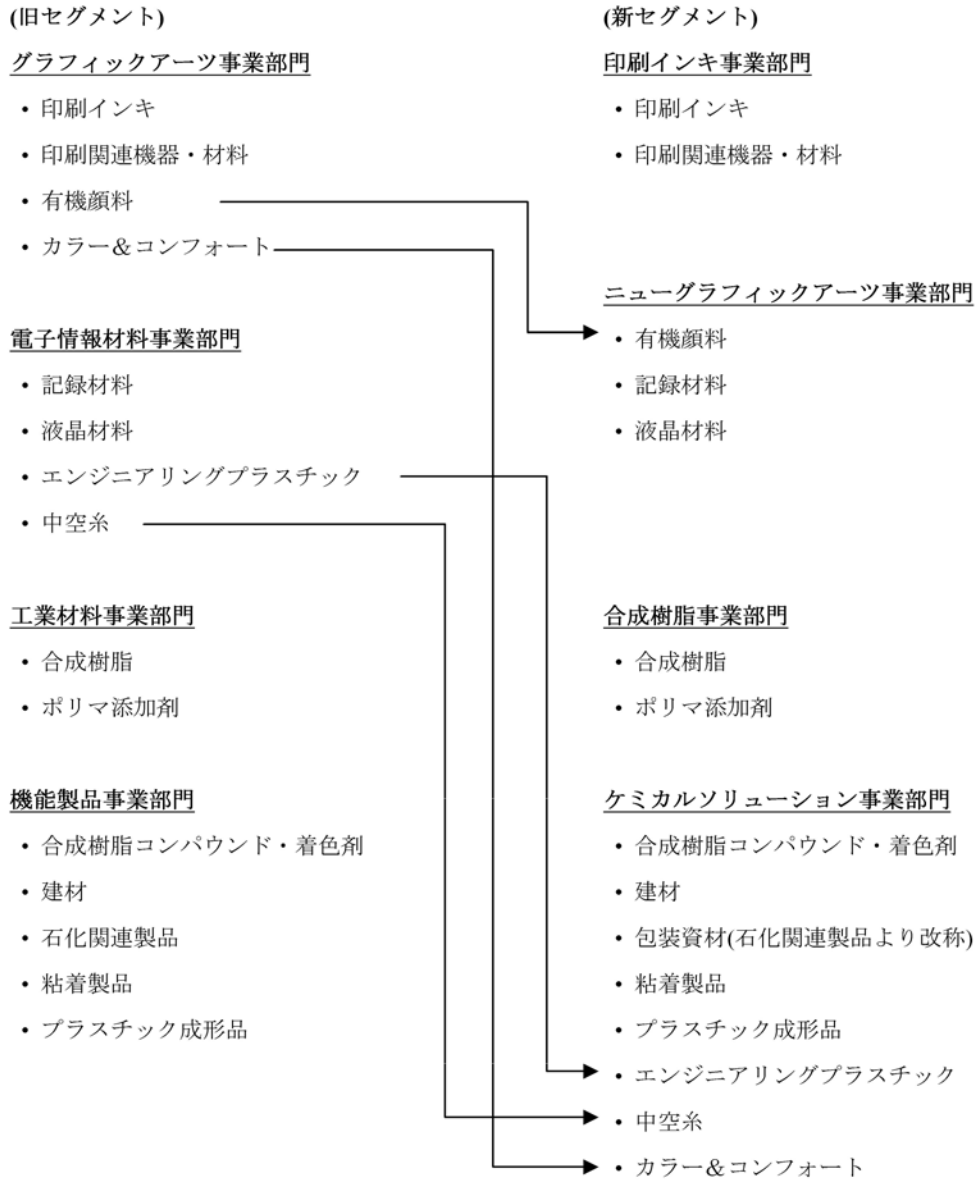
	売 上 高				営 業 利 益			
	当第1 四半期 実績 (3か月)	前第1 四半期 実績 (3か月)	前年同期比		当第1 四半期 実績 (3か月)	前第1 四半期 実績 (3か月)	前年同期比	
				為替影響 排除後				為替影響 排除後
印刷インキ	1,023	936	9.3%	6.9%	36	15	2.4倍	97.4%
ニューグラフィック アーツ	265	227	16.9%	18.4%	8	△1	黒字化	黒字化
合成樹脂	391	327	19.6%	19.0%	38	17	2.3倍	2.3倍
ケミカルソリューション	385	320	20.3%	20.0%	22	1	16.6倍	15.6倍
その他	17	10	64.0%	54.8%	9	1	9.3倍	7.6倍
消去又は全社	△114	△109	----	----	△10	△12	----	----
計	1,968	1,712	15.0%	13.4%	102	21	4.8倍	4.1倍

当社は、基礎素材とコア技術を基盤として、事業を社会変化に対応して成長させることを目的に、平成22年4月1日付にて、下記のとおり、事業セグメントを改編いたしました。

この改編は、中期経営計画「DIC102」の基本方針である「点から面へ」の展開（製品ごとの事業運営から、全社としてのシナジーを活かし総合力を発揮する事業運営への転換）や、当社経営ビジョン「Color & Comfort by Chemistry」（化学で彩りと快適を提案する）の実現に向けた具体的な施策の一環です。

なお、前年同期の数値については、変更後の区分に組み替えて記載しております。

【新旧セグメントの対照表】



各事業部門の業績は次のとおりです。前年同期比の（ ）内の数値は、為替換算の影響を排除した増減比を表しています。なお、印刷インキ事業部門の業績には事業部門内の地域間取引が含まれており、合計金額は上記の業績数値と一致しません。

[印刷インキ事業部門]

・ 日本	売上高： 247億円	前年同期比	21.3%
	営業利益： 8億円	前年同期比	△10.5%

昨年の第3四半期より、ザ・インクテック社の印刷インキ事業の商権を引き継いだことにより、国内では大幅な増収となりました。グラビアインキは、飲料・食品向けの軟包装材関連の需要が底堅く、堅調に推移しましたが、出版・チラシ関連の不振、新聞の発行部数やページ数の減少により、オフセットインキと新聞インキは、苦戦を強いられました。

営業利益は、上記のような売上状況や原料価格の上昇などにより減益となりました。

・米州・欧州 売上高： 661億円 前年同期比 4.9% (2.8%)  
 営業利益： 20億円 前年同期比 30.3倍 (6.1倍)

北米及び欧州では、新聞インキと出版用インキが、北米における新聞・雑誌などの発行部数減少により苦戦しましたが、全体的な需要の回復により、主力のパッケージ用インキを中心に、多くの品目が増収となりました。中南米においては、需要が全般的に好調に推移し、大幅な増収となりました。

営業利益は、上記のような売上状況や合理化の効果などにより、大幅な増益となりました。

・アジア・オセアニア 売上高： 135億円 前年同期比 14.6% (6.5%)  
 営業利益： 10億円 前年同期比 30.7% (23.6%)

中国では、輸出産業向けのオフセットインキやグラビアインキを中心に全般的に好調に推移し、増収となりました。東南アジアにおいては、オフセットインキ、グラビアインキなどが堅調な需要に支えられ、増収となりました。オセアニアにおいては、オフセットインキ、新聞インキが苦戦し、減収となりましたが、円安の影響により増収となりました。インドにおいては、全般的に需要が好調に推移し、増収となりました。

営業利益は、上記のような売上状況から、増益となりました。

[ニューグラフィックアーツ事業部門]

売上高： 265億円 前年同期比 16.9% (18.4%)  
 営業利益： 8億円 前年同期比 黒字化 (黒字化)

有機顔料は、国内外においてインキ用および塗料・プラスチック用ともに大幅な増収となりました。また、インクジェットインキについても需要が拡大し、大幅な増収となりました。一方、TFT液晶は競争激化により苦戦を強いられ、大幅に減少しました。また、光ディスク用保護コート剤・接着剤は、CD向け、DVD向け需要の減退等により落ち込みました。

営業利益は、上記のような売上状況の結果、黒字化となりました。

[合成樹脂事業部門]

売上高： 391億円 前年同期比 19.6% (19.0%)  
 営業利益： 38億円 前年同期比 2.3倍 (2.3倍)

電気・電子産業向けを中心に全般的に需要が増大したことから、エポキシ樹脂、水性ウレタン、改質剤、アルキルフェノールなど、ほとんど全ての品目において増収となりました。

営業利益は、全般的な売上数量の増加及び品目構成の改善などにより、増益となりました。

[ケミカルソリューション事業部門]

売上高： 385億円 前年同期比 20.3% (20.0%)  
 営業利益： 22億円 前年同期比 16.6倍 (15.6倍)

PPSコンパウンドは、ハイブリッド車向けを中心に伸長し、大幅な増収となりました。また、需要の増大により、ポリスチレンや機能性コンパウンド、工業用粘着テープ、機能性光学材料など、ほとんど全ての品目で増収となりました。

営業利益は、全般的な売上数量の増加及び品目構成の改善などにより、増益となりました。

## (3) 当第2四半期連結累計期間及び通期の業績全般の見通し

平成22年5月12日に公表した業績見通しを以下の通り修正致します。

(単位：億円)

	当第2四半期 連結累計期間 見通し	前年同期 実績	前年同期比	通期 見通し	前期 実績	前期比
売上高	3,900 (3,800)	3,599	8.4%	7,800 (7,700)	7,578	2.9%
営業利益	200 (150)	77	2.6倍	380 (350)	278	36.6%
経常利益	160 (120)	30	5.4倍	310 (280)	191	62.5%
当期純利益	80 (30)	6	14.2倍	120 (100)	25	4.7倍

( ) 内の数値は平成22年5月12日公表値

## (業績見通しの修正理由)

当第2四半期連結累計期間及び通期について、電気・電子産業向けを中心に需要が好調に推移する見通しであり、売上高・利益とも、当初予想を上回る見込みとなりましたので、上記の通り業績予想を修正いたします。

業績の見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき、当社の経営者が判断したものであり、潜在的なリスクや不確定要素が含まれていません。業績に影響を与え得る重要な要素としては、国内外の経済情勢、市場の動向、原料価格や金利、為替レートの変動などのほか、紛争・訴訟、災害・事故などのリスクがあり、また、事業再構築に伴う一時損失が発生する可能性があります。ただし、業績に影響を与え得る要素はこれらに限定されるものではありません。

## 2. 財政状態

## (資産、負債及び純資産の状況に関する分析)

当第1四半期末の資産の部は前期末と比べて308億円増加し、7,807億円となりました。主な増加の要因は、債権流動化の減少に伴う売上債権の増加によるものです。負債の部は、有利子負債の増加により、前期末比81億円増の6,351億円となりました。また、純資産の部は、増資等により前期末比228億円増の1,456億円となりました。

## (キャッシュ・フローの状況に関する分析)

[営業活動によるキャッシュ・フロー] 当第1四半期 △325億円 (前第1四半期 △407億円)

当第1四半期は、税金等調整前四半期純利益が76億円、減価償却費が82億円となりました。一方で、運転資本等に資金を使用した結果、営業活動に使用した資金の総額は325億円となりました。

[投資活動によるキャッシュ・フロー] 当第1四半期 △49億円 (前第1四半期 △72億円)

当第1四半期は、設備投資に48億円の資金を使用した結果、投資活動に使用した資金の総額は49億円となりました。

[財務活動によるキャッシュ・フロー] 当第1四半期 307億円 (前第1四半期 490億円)

当第1四半期は、株式の発行により175億円、借入金により153億円の資金を調達した一方で、剰余金の配当として16億円を支払いました。以上の結果、財務活動により得られた資金の総額は307億円となりました。

### 3. その他の情報

#### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

#### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

##### 1. 簡便な会計処理

採用した簡便な処理のうち、重要なものはありません。

##### 2. 特有の会計処理

一部の連結子会社の税金費用については、当第1四半期を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

#### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

##### 1. 会計処理基準に関する事項の変更

① 当第1四半期より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、営業利益及び経常利益がそれぞれ4百万円、税金等調整前四半期純利益が696百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は757百万円であります。

② 当第1四半期より、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成20年12月26日）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）、「「研究開発費等に係る会計基準」の一部改正」（企業会計基準第23号 平成20年12月26日）、「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成20年12月26日）、「持分法に関する会計基準」（企業会計基準第16号 平成20年12月26日公表分）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日）を適用しております。

##### 2. 表示方法の変更

「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用により、当第1四半期では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。



4. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期末 (22.6.30)	前期末に係る 要約連結貸借対照表 (22.3.31)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	25,170	29,549
受取手形及び売掛金	222,500	182,053
商品及び製品	72,526	71,631
仕掛品	9,355	9,225
原材料及び貯蔵品	46,396	43,063
その他	31,031	34,905
貸倒引当金	△8,756	△8,668
流動資産合計	398,222	361,758
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	97,285	97,874
機械装置及び運搬具(純額)	77,949	78,593
工具、器具及び備品(純額)	8,885	9,254
土地	59,495	59,828
建設仮勘定	4,299	6,848
有形固定資産合計	247,913	252,397
無形固定資産		
のれん	1,601	1,704
その他	11,944	12,177
無形固定資産合計	13,545	13,881
投資その他の資産		
投資有価証券	29,763	30,404
その他	91,975	92,078
貸倒引当金	△719	△652
投資その他の資産合計	121,019	121,830
固定資産合計	382,477	388,108
資産合計	780,699	749,866

(単位：百万円)

	当第1四半期末 (22.6.30)	前期末に係る 要約連結貸借対照表 (22.3.31)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	121,987	121,661
短期借入金	78,179	51,593
コマーシャル・ペーパー	9,200	200
1年内償還予定の社債	15,000	25,000
未払法人税等	2,805	4,267
賞与引当金	3,180	2,911
その他	62,381	65,349
流動負債合計	292,732	270,981
固定負債		
社債	41,000	41,000
長期借入金	247,473	258,889
退職給付引当金	28,081	29,391
製品補償損失引当金	—	1,000
資産除去債務	1,071	—
その他	24,748	25,776
固定負債合計	342,373	356,056
負債合計	635,105	627,037
純資産の部		
株主資本		
資本金	91,154	82,423
資本剰余金	88,758	80,027
利益剰余金	31,577	27,131
自己株式	△649	△648
株主資本合計	210,840	188,933
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△181	278
繰延ヘッジ損益	△385	△217
年金負債調整額	△21,335	△22,036
為替換算調整勘定	△65,111	△65,924
評価・換算差額等合計	△87,012	△87,899
少数株主持分	21,766	21,795
純資産合計	145,594	122,829
負債純資産合計	780,699	749,866

## (2) 四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期 (21. 4. 1~21. 6. 30)	当第1四半期 (22. 4. 1~22. 6. 30)
売上高	171, 189	196, 806
売上原価	138, 400	154, 779
売上総利益	32, 789	42, 027
販売費及び一般管理費		
従業員給料及び手当	10, 745	9, 939
貸倒引当金繰入額	148	437
賞与引当金繰入額	847	947
退職給付費用	1, 721	1, 246
その他	17, 221	19, 244
販売費及び一般管理費合計	30, 682	31, 813
営業利益	2, 107	10, 214
営業外収益		
受取利息	265	191
受取配当金	50	44
為替差益	99	273
持分法による投資利益	258	340
その他	697	641
営業外収益合計	1, 369	1, 489
営業外費用		
支払利息	2, 021	1, 750
その他	1, 141	691
営業外費用合計	3, 162	2, 441
経常利益	314	9, 262
特別損失		
固定資産処分損	385	733
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	692
リストラ関連退職損失	252	204
特別損失合計	637	1, 629
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△323	7, 633
法人税等	△662	1, 126
少数株主損益調整前四半期純利益	—	6, 507
少数株主利益	151	479
四半期純利益	188	6, 028

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期 (21. 4. 1~21. 6. 30)	当第1四半期 (22. 4. 1~22. 6. 30)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△323	7,633
減価償却費	8,799	8,170
のれん償却額	166	147
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△224	74
賞与引当金の増減額(△は減少)	1,390	268
受取利息及び受取配当金	△315	△235
持分法による投資損益(△は益)	△258	△340
支払利息	2,021	1,750
固定資産除売却損益(△は益)	385	733
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	692
売上債権の増減額(△は増加)	△24,265	△38,344
たな卸資産の増減額(△は増加)	4,516	△4,786
仕入債務の増減額(△は減少)	△14,684	376
その他	△12,864	△4,626
小計	△35,656	△28,488
利息及び配当金の受取額	905	528
利息の支払額	△2,153	△1,575
法人税等の支払額	△3,800	△2,937
営業活動によるキャッシュ・フロー	△40,704	△32,472
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△61	—
定期預金の払戻による収入	141	—
有形固定資産の取得による支出	△7,633	△4,590
有形固定資産の売却による収入	63	132
無形固定資産の取得による支出	△26	△226
無形固定資産の売却による収入	1	2
関係会社株式及び出資金の取得による支出	—	△216
関係会社株式及び出資金の売却による収入	16	—
投資有価証券の取得による支出	△22	△66
投資有価証券の売却及び償還による収入	278	14
その他	62	64
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,181	△4,886

(単位：百万円)

	前第1四半期 (21. 4. 1~21. 6. 30)	当第1四半期 (22. 4. 1~22. 6. 30)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	18,473	11,801
コマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少)	△9,808	9,000
長期借入れによる収入	54,124	4,750
長期借入金の返済による支出	△6,169	△227
社債の償還による支出	△5,000	△10,000
株式の発行による収入	—	17,462
配当金の支払額	△2,373	△1,582
少数株主への配当金の支払額	△180	△442
自己株式の純増減額 (△は増加)	△3	△1
その他	△34	△56
財務活動によるキャッシュ・フロー	49,030	30,705
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,822	2,274
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	3,967	△4,379
現金及び現金同等物の期首残高	20,094	29,549
現金及び現金同等物の四半期末残高	24,061	25,170

## (4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報

## 1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち、分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に製品別の事業部門を置き、各事業部門は取り扱う製品について国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社は事業部門を基礎とした製品別のセグメントから構成されており、「印刷インキ」、「ニューグラフィックアーツ」、「合成樹脂」及び「ケミカルソリューション」の4つを報告セグメントとしております。

「印刷インキ」は、印刷インキ、印刷関連機器・材料を製造販売しております。「ニューグラフィックアーツ」は、有機顔料、記録材料及び液晶材料を製造販売しております。「合成樹脂」は、合成樹脂、ポリマ添加剤を製造販売しております。「ケミカルソリューション」は、合成樹脂コンパウンド・着色剤、建材、包装資材、粘着製品、プラスチック成型品、エンジニアリングプラスチック、中空糸及びカラー&コンフォートを製造販売しております。

## 2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期（自平成22年4月1日 至平成22年6月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	合計
	印刷インキ	ニューグラフィックアーツ	合成樹脂	ケミカルソリューション	計		
売上高							
外部顧客への売上高	102,307	17,727	36,746	38,317	195,097	1,709	196,806
セグメント間の内部売上高又は振替高	11	8,821	2,380	174	11,386	—	11,386
計	102,318	26,548	39,126	38,491	206,483	1,709	208,192
セグメント利益	3,578	795	3,819	2,161	10,353	857	11,210

## 3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	10,353
「その他」の区分の利益	857
全社費用(注)	△996
四半期連結損益計算書の営業利益	10,214

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総合研究所に係る費用であります。

(追加情報)

当第1四半期より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。なお、当該基準に準拠して作成した前第1四半期のセグメント情報は以下の通りとなります。

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第1四半期(自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他	合計
	印刷 インキ	ニューグラ フィック アーツ	合成樹脂	ケミカルソリ ューション	計		
売上高							
外部顧客への売上高	93,092	15,559	29,734	31,762	170,147	1,042	171,189
セグメント間の内部売上高 又は振替高	503	7,142	2,975	236	10,856	—	10,856
計	93,595	22,701	32,709	31,998	181,003	1,042	182,045
セグメント利益	1,514	△71	1,671	130	3,244	92	3,336

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と前第1四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,244
「その他」の区分の利益	92
全社費用(注)	△1,229
前第1四半期連結損益計算書の営業利益	2,107

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総合研究所に係る費用であります。

## (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成22年6月1日付で公募増資を実施いたしました。また平成22年6月22日付で、みずほ証券株式会社から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第1四半期において資本金が8,731百万円、資本剰余金が8,731百万円増加し、当第1四半期末において資本金が91,154百万円、資本剰余金が88,758百万円となっております。